



オフィスD企画（飛驒オフィス）
〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町 7-385



Life & Work わたしの 天職

観光客の喜びが 私の喜び

まつば よしこ
松葉嘉子さん（76）
岐阜県・高山教会

心に残る旅をお手伝いしたい——。松葉嘉子さんは、その思いでバスガイドをしてきた。今年で五十九年目を迎える、岐阜県で最年長のガイドだ。

松葉さんは高校を卒業後、ガイドとしてバス会社に就職。二十八歳でフリーに転身して現在に至る。元来、人見知りをしない性格。一般的に知られていない情報を足して観光地の説明を工夫したり、乗客と積極的に言葉を交わしたりして、人気を集めた。マニュアルに頼らずに自分の言葉で説明すること、そして親しみを感じさせるコミュニケーションが、松葉さんの真骨頂だ。

加えて、飛驒高山をより深く知ってもらうために、歴史を語って聞かせるのがセールスポイント。例えば、小説『あゝ野麦峠』に描かれる、明治後期に信州の製糸工場で寒さと厳しい労働に耐え、健気に

生きた飛驒の十代女性たちの姿や、昭和四十三年にバス二台が土砂災害によって飛驒川に転落し、百人以上の犠牲者を出した「飛驒川バス転落事故」の惨状などを切々と語る。それが観光客の涙を誘う。「泣かせのガイド」としての評判が広まり、各地から乗務を依頼されるようになった。

近年、バスガイドは松葉さんのようにフリーで活動する人が多いが、雇用環境は厳しい。そこで岐阜と長野両県のフリーバスガイドに声をかけ、バス会社に派遣する「オフィスD企画」の設立に携わったのち、統括チーフを務めてきた。「優秀なのに仕事ももらえないガイドたちの現状を打開したかった」と当時の思いを語る。

信条にしている言葉がある。庭野日敬開祖が上京する際に誓った「他人のいやがることを進んでやろう」だ。多忙な乗務の中でも、「オフィスD企画」での役割は、自分の大切な仕事と捉えている。

観光客に喜びを与えることと、バスガイド界の活性化——その目標に向かって、松葉さんは今日もマイクを握る。



*立正佼成会経営者サンガネットワーク「六花の会」
<https://rikkanokai.jp/community/>
2月1日から上記ウェブサイトでもこの記事をご覧いただけます。